

長野県住生活基本計画の概要 住宅施策を取り巻く現状と課題

【計画期間】平成28年度(2016年度)～平成37年度(2025年度)

少子高齢化、人口・世帯数減少社会への対応 (P.3～)

現状

- ◇住宅の量は充足、世帯数との差は次第に拡大
- ◇人口は既に減少、世帯数も今後は減少する見込み
- ◇少子高齢化は一段と進展する見込み

課題

- ◆住宅ストック活用型社会への転換と空き家対策
- ◆居住ニーズとの不一致の解消
- ◆進展する少子高齢社会に応じた居住環境の整備

住宅数と世帯数
[住宅・土地統計調査]

年	住宅数 (千戸)	世帯数 (千戸)
S43	430	430
S48	480	480
S53	530	530
S58	580	580
H5	630	630
H10	680	680
H15	730	730
H20	780	780
H25	982	789

人口と年齢構成
[H27までは国勢調査、H32以降は
国立社会保障・人口問題研究所推計]

年	人口総数 (千人)	年少人口割合 (%)	老年人口割合 (%)
S60	2,000	40	20
H2	2,000	35	35
H7	2,000	30	40
H12	2,099	25	45
H17	2,099	20	50
H22	2,099	15	55
H27	2,099	10	60
H32	1,930	10	60
H37	1,761	10	60
H42	1,761	10	60
H47	1,761	10	60

災害に強く快適で健康な住まいづくり (P.19～)

現状

- ◇住宅の耐震化率は77.5%
- ◇高齢者等対応設備がある住宅は59.3%

課題

- ◆耐震化の一層の促進と安全・安心な住まいづくり
- ◆健康長寿のための快適・健康な住まいづくり

住宅の耐震化の状況
[H25住宅・土地統計調査から推計]

状況	戸数 (千戸)	割合 (%)
耐震性あり (S55年以前建設)	529.4	67.6%
耐震改修済み (S55年以前建設)	37.2	4.7%
耐震性不十分 (S55年以前建設)	176	22.5%
合計	763	100%

高齢者等のための設備がある住宅の割合
[住宅・土地統計調査]

年	全戸 (%)	持ち家 (%)	借家 (%)
H15	59.3	72.2	25.3
H20	60.1	72.2	25.3
H25	59.3	72.2	25.3

地域の特性に応じた活力あるまち・むらづくり (P.26～)

現状

- ◇増加する空き家で防災・衛生・景観等の悪化の懸念
- ◇過疎地域における少子高齢化が顕著

課題

- ◆既存住宅の有効活用と状況に応じた除却・建替え
- ◆景観育成等による個性豊かな特色ある地域づくり

空き家の状況
[住宅・土地統計調査]

年	全国値 (千戸)	県値 (千戸)
S58	14.6	19.8
S63	14.6	19.8
H5	14.6	19.8
H10	14.6	19.8
H15	14.6	19.8
H20	14.6	19.8
H25	14.6	19.8

高齢者、年少者の割合
[企画振興部まとめ]

年	高齢者 (65歳以上) (%)	年少者 (15歳未満) (%)
S60	10.8	36.2
H2	13.7	26.4
H7	13.7	26.4
H12	13.7	26.4
H17	13.7	26.4
H22	13.7	26.4

地域の資源を活かした環境にやさしい住まいづくり (P.15～)

現状

- ◇新設木造住宅の県産木材利用は一定量で推移
- ◇省エネルギー化された住宅ストックは限定的

課題

- ◆地域資源の利活用による地消地産の住まいづくり
- ◆既存住宅の省エネルギー化の一層の促進

新設住宅(木造在来工法)における推定木材使用量と県産木材建築用材製品出荷量
[住宅着工統計、長野県木材統計]

年	推定木材使用量 (千m³)	県産木材建築用材製品出荷量 (千m³)	比率 (%)
H17	220	50	22.7
H18	220	50	22.7
H19	180	40	22.2
H20	180	40	22.2
H21	180	40	22.2
H22	220	50	34.2
H23	220	50	34.2
H24	220	50	34.2
H25	220	50	34.2
H26	180	40	22.2

住宅への省エネルギー機器等の設置状況
[住宅・土地統計調査]

年	太陽熱を利用した温水機器等あり (千戸)	太陽光を利用した発電機器あり (千戸)	二重サッシ又は複層ガラス (すべての窓) (千戸)	二重サッシ又は複層ガラス (一部の窓) (千戸)
H15	58.6	49.8	188.2	231.4
H20	58.6	49.8	188.2	231.4
H25	58.6	49.8	188.2	231.4

誰もが安心して暮らせる住まいの提供 (P.23～)

現状

- ◇公営住宅入居世帯は、高齢者世帯（特に単身・夫婦のみ世帯）が増加
- ◇公営住宅の1/3が耐用年数を経過

課題

- ◆住宅セーフティネットの充実
- ◆公営住宅の計画的な建替や改修等による長寿命化

公営住宅入居世帯の状況
[建設部まとめ]

区分	H28.4.1		H23.4.1		増減	
	世帯数	構成比 (%)	世帯数	構成比 (%)	世帯数	構成比 (%)
入居世帯	27,422	100.0	30,361	100.0	△ 2,939	100.0
高齢者世帯	6,724	24.5%	5,950	19.6%	774	4.9%
単身	1,901	6.9%	1,621	5.3%	280	1.6%
夫婦のみ	2,566	9.4%	2,475	8.2%	91	1.2%
その他	11,191	40.8%	10,046	33.1%	1,145	7.7%
合計	3,820	13.9%	3,372	11.1%	448	2.8%
障がい者世帯	3,613	13.2%	4,321	14.2%	△ 708	△ 1.1%
ひとり親世帯	1,407	5.1%	1,810	6.0%	△ 403	△ 0.8%
外国人世帯						

公営住宅の管理状況
[建設部まとめ]

年	耐用年数経過 (戸)	未経過 (戸)
県営	3,948 (25.9%)	11,300 (74.1%)
市町村営	7,204 (40.7%)	10,508 (59.3%)
全体	11,152 (33.8%)	21,808 (66.2%)
	計15,248戸	計17,712戸
	計32,960戸	

地域の住まいを支える住生活産業の成長・発展 (P.11,30～)

現状

- ◇「信州らしい住まい」への共通イメージ
- ◇木造住宅建設の担い手である大工等技術者は減少

課題

- ◆地域に根ざした良質な住まいづくり
- ◆その担い手の確保・育成や技能・技術の継承

「信州らしい住まい」のイメージ
[H27住まいに関する県民アンケート(建設部)]

イメージ	キーワード
自然と調和した住まい	自然豊か(水、空気、緑、山、森林)、自然素材、景観等
木を活かした住まい	木造、県産木材、まきストーブ、生垣、庭木等
農業を取り入れた住まい	家庭菜園、田園風景、自給自足、農家住宅等
伝統、文化と調和した住まい	古民家、和風、地域文化、旧街道、田舎の原風景、昔ながら、在来工法等
寒冷地に適した住まい	高断熱、冬寒くない、床暖房、雪に強い等
あたたかい交流のある住まい	近所付き合い、世代間交流、三世代同居、縁側等
ゆとりのある住まい	一戸建て、隣家との間隔が広い、駐車場が広い、広い間取り、庭等
自然エネルギーを活用した住まい	高い晴天率、太陽光・太陽熱、通風等

○その他

- ・近隣同士のつながりがあり、幅広い年齢層の人々が生き生きと生活できる
- ・はっきりした四季を感じることができる
- ・豊かな自然の中で、子どもたちがのびのびと育つ
- ・多少の不便さがあっても、ゆったりのんびり住んでいける(交通の便が悪い、公園が少ない)

現在の住まいの評価
[H27住まいに関する県民アンケート(建設部)]

評価	割合 (%)
悪くなっている	9%
やや悪くなっている	18%
どちらともいえない	36%
やや良くなっている	14%
良くなっている	22%
無回答	1%

大工就業者数
[H22までは国勢調査、H27は推計]

年	人
S25	10,000
S30	12,000
S35	14,000
S40	16,000
S45	18,000
S50	20,000
S55	22,000
S60	24,000
H7	26,000
H12	24,000
H17	22,000
H22	18,000

1

長野県住生活基本計画の概要 目標と施策体系

【計画期間】平成 28 年度（2016 年度）～平成 37 年度（2025 年度）

